

1 市の概要（H30年度）

人口	52,778人
保護率	1.5%

2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり(件) 一月当たり	32.8
プラン作成件数人口10万人当たり(件) 一月当たり	4.7
就労支援対象者数人口10万人当たり(件) 一月当たり	2.4
就労・増収率(%)	80.0

3 実施方法について

実施方法	委託（救護施設松山荘）、単年・随意契約
事業費	350千円（平成30年度）
理由（委託）	職員が24時間いること、困りごとを抱えた方への支援を現に行っている福祉職が対応できる。そのため、専門職同士で、情報共有をスムーズに行うことができ、また、休日・夜間の対応も可能。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・借上型シェルター、3戸 ・相談受付は自立相談支援事業等委託先である宮古市社会福祉協議会「くらしネットみやこ相談室」、支援員6人 ・本人が必要な活動ができるよう、本事業以外の全事業を委託している「くらしネットみやこ相談室」が一体的に支援。 ・市内の様々な社会資源との連携。
課題・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的な住まいの支援であるため、限られた期間で次の生活の場を決定しなければならず、迅速な対応が必要。 ・支援実施期間中、日中の時間帯の活動が少ないことから本人の意欲低下がみられることが多い。一時生活支援事業と併せた日中の時間帯の活動及び利用者の収入につながる取り組みが必要。 ・放浪や東日本大震災復興作業員として県外から来る利用者が多い。自立に向けて、市外も含めた就労先を検討する必要。

4 事業実績（H30年度）

利用者	就職	生活保護	その他
5人	4人	0人	1人

5 事業実施のポイント ～就労準備支援事業を居場所として活用～

○就労準備支援事業で実施している活動へ参加

《メリット》

新たな生活への準備資金確保や本人の自立への意欲向上が望める。

①しごとネット（写真左）

市内企業から作業を受注し、最低賃金以下で作業。就労体験の場であり、他人と作業をすること、社会のマナーを学ぶ場

②荒波キッチン（写真右）

調理等をとおして人との関わりを持つことや達成感を感じる場



6 取り組んで良かったこと

- ・一時生活自立支援を実施している救護施設での様子やしごとネット、荒波キッチンへの参加の様子からアセスメントを深めることができる。
- ・日中の活動を増やすこと、他人とのコミュニケーションをとることで、本人の自立への意欲向上が見られる。